



# 竜馬との会見から上京まで

## 竜馬と会見

龍馬が福井にやってきた1867年（慶応3）10月でも、**由利は他国の者との交流を制限**されていたようで、監視役として松平源太郎が立ち会いました。

## 夜通し議論

**10月30日、龍馬と会見**した由利は、最近の京都の情勢、幕府の財政や国が用いる金銭等を夜中まで議論しました。

## 京都へ

福井藩から上京の達しが出されたのが、**1**12月15日。由利はその日のうちに出立し（「士族六」）、17日夕方には京都に入りました（『由利公正伝』）。このことから、この歌は、**15日から17日の間のようす**を詠んだものと考えられます。由利は、「木綿縞の衣服に『ブッサキ』羽織を着し」、長く伸びたヒゲを剃る間もなく上京したと記しています（「雲軒自記」『由利公正伝』）。

## 参与と命

17日付で藩から**2**隠居として取扱うことが認められ（**3**10人扶持）、18日には、**新政府の参与に任命**されました。新政府では五箇条の御誓文の原案作成や太政官札の発行などに携わります。

**3** 於御国表御扶持方十人扶持

**2** 隠居之御取扱

**1** 十二月十五日 御用有之、急々上京

